

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月16日

【評価実施概要】

事業所番号	2692700020
法人名	医療法人社団 外松医院
事業所名	医療法人社団 外松医院 ハーモニーグループホーム
所在地	〒624-0928 京都府舞鶴市宇竹屋98-1 (電話) 0773-75-8821

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年1月20日	評価確定日	平成21年3月13日

【情報提供票より】(平成 20 年 12 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 3 月 22 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 7 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 10.3 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	29,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,300 円	

(4)利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	0 名	要介護2	2 名			
要介護3	5 名	要介護4	1 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84.9 歳	最低	78 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	外松医院・舞鶴共済病院・フジモト歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは商店街にも近い町中にあり、ホームに入ると癒し犬と優しい音楽に出迎えられ、リビングからは川の流れや山々が見渡せ、季節を感じながら過ごすことが出来ます。ホームの名前にふさわしい取り組みとして音楽療法に力を入れ、楽器演奏や歌うことを通じて利用者の生き生きとした表情を引き出しています。職員一人ひとりが理念をよく理解しており、小学生対象の認知症の勉強会や地域との救急救命講習会開催を実現され、地域に根ざす取り組みをされています。敬老会では利用者の1年間の思い出の写真をスライドショーにして家族や参加者に観て頂き、とても喜ばれています。音楽を共に愛する心と利用者や家族、地域、職員の「和」を大切にされているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	新たな地域活動の開催実現や災害時の協力依頼、ホームを一時避難場所としての提供申し入れ等、地域に積極的に働きかけ改善に取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価票は管理者と数名の職員が意見を出し合い作成し、他の職員にも回覧しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に一度、利用者、家族会代表、町内会長、老人会長、民生委員、市担当者、施設料、管理者、職員等が参加し、開催されています。会議ではホームからの行事や取り組みの報告がなされる他、参加者から地域の情報を得たり、防災協力を地域に依頼するなど、有意義な活動の場となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来所時に話をしたり、敬老会の際に家族会を開催し、直接家族の意見や要望を聞く機会を設けています。また意見箱の設置や外部機関の書類への掲載等、家族からの意見を積極的に聞く機会を持ち、必要があれば職員間で話し合い、解決しています。敬老会では利用者の1年間の思い出の写真をスライドショーにして家族に見てもらい喜ばれました。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入し地蔵盆、花火大会等地域行事に参加している。ホームの敬老会、夏祭り等にも地域の方を招待し、清掃活動や防災訓練にも地域の一員として参加しています。また管理者が近隣小学校で認知症の勉強会を開催したり、家族や地域と一緒に救急救命講習会を実施する等、ホームと地域との「和」を大切にしています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「生きる」と「和」を理念とし、場所探しの段階から地域の中で共に暮らしたいと願いを込め、商店街にも近い場所で開設されている。ホームが最も大切にしている言葉である「和」の額を玄関に掲示し、基本理念と処遇方針をリビング入口と事務所に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は毎朝、理念を唱和している。管理者は会議等でも、すべてに通じる「和」を常に意識して行動するように職員に伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地蔵盆、花火大会等に参加している。ホームの敬老会、夏祭り等にも地域の方を招待し、清掃活動や防災訓練にも地域の一員として参加している。また管理者が近隣小学校で認知症の勉強会を開催したり、家族や地域と一緒に救急救命講習会を実施する等、ホームと地域との「和」を大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票は管理者と数名の職員が意見を出し合い作成し、他の職員にも回覧している。また新たな地域活動の開催実現や災害時の協力依頼、ホームを一時避難場所としての提供申し入れ等、地域に積極的に働きかけ改善に取り組まれている。	○	自己評価は全員で取り組むことで、これまでの振り返りや今後の自信にも繋がり、実施した際に最大の効果をもたらすことが出来るものである。ぜひ全員で取組まれることが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に一度、利用者、家族会代表、町内会長、老人会長、民生委員、市担当者、施設長、管理者、職員等が参加し、開催されている。会議ではホームからの行事や取り組みの報告がなされる他、参加者から地域の情報を得たり、防災協力を地域に依頼するなど、有意義な活動の場となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には毎回、運営推進会議へ出席いただき、参加者からの質問や意見にも対応してもらっている。管理者は議事録を持参し、問題があれば相談に訪れている。また毎月介護相談員を受け入れ、話を聞いてもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の写真入りのホーム便り「和み」と、個々の暮らしぶりが書かれた連絡表を、毎月請求書と一緒に家族に郵送している。金銭は預かり金の収支報告書と領収書を家族に送り、来所の際にサインをもらっている。敬老会では利用者の1年間の思い出の写真をスライドショーにして家族に観て頂き、喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所持に話をしたり、敬老会の際に家族会を開催し、直接家族の意見や要望を聞く機会を設けている。また意見箱の設置や外部機関の書類への掲載等、家族からの意見を積極的に聞く機会を持ち、必要があれば職員間で話し合い、解決している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員間においても理念の「和」を大切に、楽しみながら仕事が出来るように取り組み、一緒に食事や話をして職員からの相談や悩みを聞くようにしている。新任の職員も1か月から3か月くらいかけて、徐々に利用者と馴染んでもらうなど、シフト体制にも配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修についての情報は回覧し、職員の希望をもとに順次研修に参加している。法人研修も定期的に行われ、ホーム内でも毎月テーマを決め勉強会を開催している。外部研修については報告書を提出しホームの勉強会で伝達研修され、資料はコピーして全員に配布している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北部グループホーム連絡会に参加し、定期的に研修会や交流の場を持っている。また職員同士の交換研修を行ない、職員会議で発表し、他の職員と情報を共有している。今後は舞鶴市のグループホームに声をかけ、連絡会を設立し、ネットワークを利用した相互の交流を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前はできるだけ利用者、家族にホームの見学に来てもらい、お茶や食事を一緒にして雰囲気を味わってもらっている。また職員は必ず自宅を訪問し、その人の環境を知るように心がけている。併設のデイサービスからの利用者もあり、馴染みやすい環境であるが、帰宅願望がある利用者には家族の協力を得て、徐々に馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は野菜作りのコツや得意の編み物、書道を利用者から教わったり、自信をなくして落ち込んでいる時、慰めてもらう等、利用者から助けてもらうことも多く、共に生活する中で支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを使い、利用者の思いや希望を把握している。利用者を知ることが大切であるとの考えから、常に利用者に関わる努力をし、態度や様子から思いを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は日々の気づきや思いを申し送りノートに記載し、毎朝のミニカンファレンスで伝達し共有している。利用者や家族の希望、必要があれば主治医の意見も聞いた上で、職員全員でカンファレンスを行ない、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月毎にカンファレンスにおいてモニタリング、評価を行ない、介護計画の見直しを行っている。また状態に変化が見られる利用者は、その都度見直しを行っている。介護記録は記載方法を現在模索、検討中である。	○	介護計画と日々のケアにブレが生じないためにも介護記録は重要である。介護計画に添った記載で利用者の現状を把握できる内容となるよう、記録面での充実が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助、利用者の希望による買い物、喫茶店や美容院、墓参り、知人の入院見舞の外出等、個別での支援を行っている。またデイサービスでの入浴等利用者のニーズに添って臨機応変に対応している。今後は待機者のためにホームでの通所サービスや短期入所も検討されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を聞き、かかりつけ医を決めており、以前からのかかりつけ医を継続している利用者もいる。ホーム医が毎週訪問し、歯科や皮膚科は必要時に職員が通院介助している。医療法人であり管理者が看護師ということもあり、24時間連絡体制も万全である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「重度化した時の終末期に向けた指針」を家族に説明し同意を得ている。今までにターミナルの経験は無いが、できる限りの支援ができるよう体制を整えている。その都度、家族、医師、職員で話し合いながら利用者にとって最善の方法が取れるように考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	不用意な言葉かけや、利用者のプライバシーを損ねるような発言をしないよう常に心がけている。言葉使いが悪いと直接利用者に叱られることもある。個人ファイルは事務所の本棚に保管されており、倫理・マナーについての研修も予定している。	○	個人情報の取り扱いについては細心の注意が必要であり、これらの書類はなるべく鍵のかかる場所に保管されることが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は個々のペースで自由に過ごしているが、職員は利用者の意向を大切にしながら、無理強いすることなく、リハビリを兼ね少しでも動くことを提案している。愛犬と遊んだり、楽器演奏、畑仕事等好きなことが出来るように個別に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護食士を目指している職員がバランスの取れた体に良いメニューを作成し、利用者と一緒に毎日買い物にでかけている。職員は利用者の希望により、下ごしらえや後片付けを一緒に行い、ゆっくり時間をかけて会話を楽しみながら同じテーブルで食事をしている。もちつきやおせち料理も一緒に作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に一度の入浴を支援しているが、希望により毎日の入浴も可能である。午後から就寝までの好きな時間帯に入浴が可能で、夏場のシャワー浴や状態に応じて寝る前の足浴の支援も行っている。また時には、デイサービスの大きな風呂に入り、温泉気分を味わっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除の際にはそれぞれに分担があり、食事の下ごしらえや洗濯たたみ、畑仕事、愛犬の世話等、利用者の希望により役割を担っている。水墨画、ぬり絵、編み物、ゲーム等自由に楽しんでいる。音楽療法を取り入れ、楽器演奏や歌を歌うことで楽しみや活性化に繋げている。利用者の誕生日には手作りのケーキで誕生会を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、日課として散歩、買い物に出かけ、車いすの利用者も職員と一緒に出かけている。ドライブや行事としての外出や外食の支援もしており、今後は家族も含めた一泊旅行や日帰り旅行も企画、予定している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しないことを原則としており、一時的にセンサーを利用するなどの対応をしている。利用者が外に出たい様子を感じたら、一緒に散歩に出かける等の配慮を心がけている。2階にあるデイサービスへも自由に行き来している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署立会いのもと、昼夜を想定して避難訓練を開催している。運営推進会議において地域に協力を呼びかけたり、災害時の一時避難場所への提案、地域防災訓練への毎年の参加等地域と共に災害対策を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の毎日の食事摂取量、水分量はチェック表に記載し把握している。また利用者の状態に合わせ、とろみ食や刻み食で対応している。栄養バランスや量は栄養についての知識がある職員が確認し、チェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日中優しい音楽が流れるホーム入口には、季節の写真や利用者の作品が飾られ、明るく広いリビングからは、川や山々の景色が見え、季節を感じる事が出来る。キッチンを中心に配し、利用者と職員が一緒に作業しやすい作りとなっている。また癒し犬を飼い、庭の畑で野菜を育て、トイレの中にも花を飾るなど、居心地良く暮らせる工夫が随所にみられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼット、洗面台、ベッド、テーブルと椅子が備え付けられた居室に、タンス、カーペット、テレビ、鏡台、家族の写真等馴染みの品を自宅から持参している。またダイヤル式電話を居室で使用されている利用者もいる。各居室には花の名前が付いており、自室がわかりやすい工夫がなされている。		